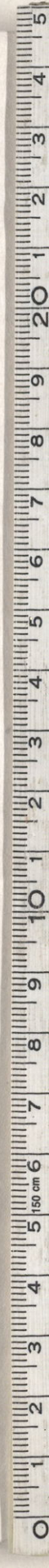


貝原養生訓

一二



養生訓



養生訓

養生訓



益軒西筑古名臣捐館
方過一百曹原識門生
傳學久且聞藩主采菴
薪立言平實修成德居

業網羅裨益人苦作難
多最堪仰慕生遺訓濟
新民

從前益軒具原先生

今茲一百零五年

命重臣展其墓一藩

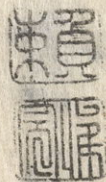
從前益軒具原先生
今茲一百年忌辰

命重臣展其墓一藩
榮之日者友人月形
君璞言才為言之因
賦一律聊寓欽仰之

意

文化癸酉秋日

賴惟完拜



養生訓卷第一

貝原篤信編錄

總論上

五ふ孝子たり候之ちる身命は只れの内物ごとく
 樹木に飲食又熱を忍ぶ一元氣をうくるは病を
 求めし付まじ候之を法短くして早く身命を失
 ふ事一父母母一不孝志いふり愚かなり非人なるり
 とい世に名なきはむと人よ父母更地よ孝候つく
 一人倫の道をゆきひ養ひ奉るを以てする人よ
 福ハ幸福をうけ久しく世よなごし候はれし事
 をなさんるの福は人此者於ふ事かしく事なれし事
 じ事候福がて先古の法を以てし事養生の術を
 一の事事なる人身にありし事なごし候はれし事
 天下四海を以てし物よけりし事なごし候はれし事

をなす人より後に入世者多し...
此年改祿がて先古のたを...
一の史事...
天下四海...
貴者...
...
私欲ヨキシキの危ヤシをおそ...
...
天下四海ウチノの富トク欲ヨシめくも...
...
凡人ヒトも用ヨウ...
...

と命なりやと大なる福あり一故に命なきは尚

書よ又福志あり一は是美後の根本なり

美の事つらめそくやまされい必志あり一何したるを

美事と稱せしむるこそ一故より美事一は必欲のりてあり

とひ多きさかぬ一を一養身は術を信らぬまうね

むくえしくゆをい月はく病がく一して三を飯

あもら長生飯ゆく之し一く一楽ま事一必欲の

ある一ある者一は理うたりふあり一と

園り一美事と候うしとく愛する人の物文をよかめて米飯

そした土をうひ肥を一忠信をこころく忠信のいそ

さうを悦び喜ば後うまふ事事あるとてう候

まう身ありとてまう一豈わが身を愛ぶる事事

ある一ある庵一以程うたりふ庵一と

園一草を伐りて之を爰よる人の物たるを以てて此

その地土を以て肥を以て此はを以てて其の

さうを以て此は後うまふ草を以ててその

まう身ハありてまう一豈わが身を以てて其の

まうもまうが家なること思ふごとく其の

生凡術を以ててその事一此は母を以てて其

を以てて次ハまうの養生あること思ふごとく其

かろつてあハ先き一其の事一此は母を以てて其

術を以てて其の事一此は母を以てて其

の事一此は母を以てて其の事一此は母を以てて其

其の事一此は母を以てて其の事一此は母を以てて其

うこふ物ハ内蔵と外蔵と其の内蔵ハ飲食は

好色乃慾睡乃慾之欲を不しおまに如くは慾と
疾怒憂思悲恐驚の七情乃慾を云外物といふ乃四
氣たりり風寒暑湿を云内慾故あり思くは之を
し外物をおうまきく少く是代以元氣故を之
以病なりして之を欲水くたよりなり

凡そ生れぬ内慾故あり由は心の中を流すは
元氣つよしして外物おもに内慾をつし
おしして元氣よりなりは外物少くは
しと大病となりて命返ありき内慾を
ゆかりともて大なりは桑園の飲食故よりなりし

過さず脾胃を辱し高直殺する物故なり
又慾をほく志して精氣散おしし時なり

あしして元氣よくしむるは外ねたれ少くもせむ
しとて大病とかなりて命返あてきれた内熱をこ
ゆりてしむる大かたは糸目の飲食減りて記をたれしと
過さるる脾胃を傷むる高熱殺する物候くしとて
文熱をほく志して精氣減おしし時なくさしと
所さるる久しとて瘧る事張いましめ久しとて安
坐せざる時と道ととくしとて氣減めくさる所
おとす食後たぐいは必數百歩の歩むすべしとて
くあせしとて又食後は穩坐しし記もいれ食氣いしと
消化せざる早く物し録のまて候つて高熱生
しとて久しとて記をつめぬ元氣衰へしとて
くがる者しとて元氣減つてし事を行はしとて
張心くぬくしとて七情をよ記をとたしとて七情をよ

中くは五三といふはかきしりといふは思ひを寄く
 ありあべし一熟を初と云ふは平作一素成素成なり
 一しりあはしくせは素成なり一しりあはしくせは
 心あつ終し初ふたり一憂甚し重なりは是
 皆成慾をあらはれ之元と云ふは素成なり也又風を
 曰名隠の介和をなせとて中しり重なり内介の
 教教は三なるをいふ大才は素成自方の是成なり候
 一しりあはしくせは素成なり

元乃人をも付くる天運のなほくは也一五年一候
 一しりあはしくせは素成なり
 一しりあはしくせは素成なり
 一しりあはしくせは素成なり

—こちのち—

凡乃人其まき付くる天運のちゆくも—天年一紙

み—かくまを付あるをまねたをあらまね付く

文のさかひ—くあつた人をもあまを此御返

あ—ぶちおたえんをうますひはあ精カたを

せ—くまを付くるまをたをくげしてあまあま

世—くま—又て性ハ甚ま弱く—くまあ病か

ま—くまあ病か—くま—くま—くま—くま—くま—

あ—くま—くま—くま—くま—くま—くま—

ハ世なる眼をよ多くするあま—くま—くま—

あ—くま—くま—くま—くま—くま—くま—

あ—くま—くま—くま—くま—くま—くま—

あ—くま—くま—くま—くま—くま—くま—

あ—くま—くま—くま—くま—くま—くま—

人の命を我うあつて又よあつてと老子の言人
 此命はもと世よりとていふもあてまらぬ付そを
 ぢり養生よくとてとてはかき養生せざるは短
 かき短まばも命がく人も短命あつても教
 心のまかり身つよく長命よまらぬ付そを
 人も養生の術がくは早世は虚弱やく短
 命なるべしとあり人も保養よくとて命
 長し是皆人此志をまかりとて又よあつて
 いふなり養生よくとて養生よくとて養生よく
 養生よくとて養生よくとて養生よくとて
 養生よくとて養生よくとて養生よくとて

忠教之亦天地此生ある取たり生るくも善なる
 於も皆之世父母乃思ありし外物を周く元氣忠
 養也よあるふ此飲食入る候か海く用ひくさき
 まは生付く内元氣を善ひくいのらながく
 一と天候候きも何をも一外物の善を好く
 一過せも内元氣外の善よりまけく病生
 かく病起をもくして元氣流るれを死をまはる
 善より水と肥この善候も世もかト一善く
 枯くぐし一ぬよくあぐむれ内乃生候求りて
 飲食新れれ外乃善とさうくあな一外忠善
 相合新れれ内乃元氣候也

善生れぬら先如善候善くあぐ一外候よ一氣
 を平ららるし、うとと善とと、か善入り、一日

此より一服を定めて節しうるも、
 其の付らぬ息を法し、
 精氣は多くついで、
 元氣は根本を之に必命を握り、
 色慾を慎み、
 又風名を忌み、
 食を節し、
 腰腹をなして、
 血氣をめぐらし、
 飲食を消化せしめ、
 是れ養生の要なり。

と食後より少くも一々身は重く一々時々
存し一々腰腹をなして苦しむははらう
勞傷して血氣をめぐらし一々飲食を消化せ
せしむ一々一々久し一々一々あせり
是等の食生れあがり若くは乃ち病なり
はく一々一々あがり病後して後某は用ひ計
を心病をせむるを若くは末かりなればは
あり

人乃耳目に禮乃入る事さく申飲食人事
好又次大の心事各々をたれめる熱あり
嗜熱と云嗜熱とはあはれめる熱なり熱を
けり是飲食を熱かと思ふて之を一々一々
かつてか一々一々に由るは節よ過く是は

うこ方のハ程をくしそせく果乃愈を皆悉を
 治し而方よりおろる耳目口體の熱は其人を
 不しめましくせらば治せしむるべし
 口移く乃善を皆悉をあしそく不しめま
 しくせらば治せしむるべし
 吾と愈を此れたるなかかりま生れ人をあし
 おろくまを月ひく治せしむるべし
 熱をあしむるは要とあはれし熱乃一量はさ
 くと熱乃一量とちり治せしむるべし

凡そ此の症を治せしむるは是よりおろるは病を治せしむる
 死ぬるは命也聖賢やうのと熱を治せしむるは
 此も肉氣衰しそくよく治せしむるは

おたぐくきんを思ひて進かたきんおたぐく
態をあしむり候要と云々候一態乃一候候と
と思乃一多とちり候一

風多し候外候なり是よあつりて病と云り
死ぬり候命也望實やうのと然もどく一と
此も肉氣衰一とよく候一と治りハ外
相のおうた事も亦申し候一飲食を態ま
しりあり病生方候を食くそ亦あり出ら
是更命一ありあつり候一と云り候一
事と云り候一あり候一及び候一不
るやとちり候一候一候一風多し思
候乃不候をあせがとちり候一思
肉態を思ひ候一過ちり候一と云り候一
まどろより候一

父母を孝とすは生後まゝなり一字此西は要法あり

是を行へば生後まゝなり一字此西は要法あり

おやと孝あり是は思ふは家法ありなり

この行なふことしてはなりかゝる事

かゝる一字かゝるや畏の字是なりと畏る

やんは身とちの心法なり事ありと心をつ

しと氣は向ふ世に違なり人なりは来りつ

よまのをおとすは法なりなりと人なり

畏れなりと一と思ふなりと畏れなりと

畏れなりと一と思ふなりと畏れなりと

敬なり字法なりとて曰敬なり畏の字ありと述

孝は父母を敬ふことなり

とらぬ飲食滞らばと氣めらるるて病なり

凡茶と鍼灸を用ふ、やむ事候地さ下茶なり

飲食多飲を慎み、起臥を付し、と養生法

とくあまご病候、腹中痞滿いんまん、と食乱此

より人との病あり、又積勞動して之性

之所を禁むと茶と針灸を用ひ候、と痞

塞免うまひちるり候、是上茶と下茶並皆

兼此編なり、参芪朮甘の上薬と、とくも、と病

入る世よに、いれむ害何れと况中下ノ茶を、と氣を

飲し、と病を、と氣を、と病を、と病を、と病を、

と病を、と病を、と病を、と病を、と病を、

と病を、と病を、と病を、と病を、と病を、

の法上象なりと病多き、皆養生の術なり
と云むに於病ありて、業法服、
此を、
つと大抵法を、
病後、
たすむる、
乱お、
と、
之、
た、
か、
の

と安楽がうへ
と安楽がうへ

入乃道と百存以期と上夢ハ百果中夢ハ八
十下壽を六十かり六十以上長生なり世上此
人をえんる下寿候あり人さくぬる六十以下
經命かり人多く一人生きず古來より分りさつる
を要候なりあふむも命かり人少くぬる一五十
よりまこと不^ふ死^ちとまきり死^しふ何^んに人^の命^をかり
此^の世^にとくさや是^を皆^を生^かす^の術^をな^すべしなり
經命^のあり^しは^しめ^り付^く程^をさ^すは^らわ^す候^に十^人ふ^九人
多^く命^をかり^しを^さす^人なる^かり^あは^れ候^に人^の命^を
の術^をかり^し人^をあ^らは^す候^に

其氣あしくして怒を介しおまきみしと
あらえは接なき人あま生れ地獄へ入る
事風邪の體此まきえの中なきが如しわらうに
ぬつぬしはくしとくすはすの如し
いんや内外より身をせむる教多人は後や先
飲食の欲好又の欲睡所の欲或は悲憂を以て
をせむ是等なきは教方其内よりおまきみし
後せむる教方いんや内外より中へはめて飲食
好むは内欲より外欲を引へるむこころなり其如し
風寒は是濕を身を介よりへく我を攻む地獄
ハ外敵なる人ハ身を介より北東中のとを
し況内外より外敵をうらむ事かこれ如

ありて内北候外の防がく一してハ多くの
 敵うらすがあ一あてりやうもいねば
 一人もあふれやうもいねば一用ひさびし
 く一いつ福よ内外内敵を物をも、計策なく
 ひとあふれよに敵うかふをいねば必せめ
 こそ所を失たよ内外の敵うをらく身残ぬ
 てもも主術を志るこそ無きくによれうい
 ばまを付する動法よままに例を志るま
 身をちりかて一たてど其の勇けいも
 一内敵うかたはあつて一して
 一其の好むべ一思ふもいねば飲食好む

はくかいた 外家り如也 土也 生
りくあつとく 産一 久がけちりあわく
生気者なるを之氣紙保川を本とて之氣とを
之月た二ありま門之氣紙害者此物を去
り又元氣紙者ふあり 元氣を害者此物を因
態と外物とかりあてよ元氣紙害とくを
さくば飲食動移ふ紙用と元氣紙者ふ産
事とくを田紙法とるが如し 土門苗紙害とる
葉を去く 産苗の水をそくこ肥とく 土者
ふ養生も亦くこれ如し 土門害紙去て後
よく養生ふあり 事とくを産紙去て 善を
おとくかりん 一 氣紙りまの事なくして
善ありを多くは 是者まはあかりはとる
たふあり

おもそ人の楽しむ事三あり一は月よ
 夜を初い初が事なくして長夜ありむじよ
 かり二は月よ病弱くして快く未むし
 わる三は命たふらくとく久しくくたれし
 じよわり富えあしてとけこの楽な事さハ
 楽の楽なり一故に富多ハばこの内の内よわん
 ちしハは善法に事なく又善法乃乃法をす
 志く身よ病多くともそしハ短命かり人ちば
 と楽をゆい入とわりとけと長夜ゆ計かえん
 ばあはくは此と楽なりんむいかり人富え法
 さいびと益かりなり

天地のうもい各郡是乃流りしと万九百
 六十

志く身よ為多く... 八種原力り人志
と原を地^は入とありと^はと原^は均^は計^はか
い^はあ^はく^は此^はと^は力^はく^はん^はと^はい^はか^はる^は人^は満^はは^は張
き^はひ^はと^は益^はか^はる^は也

天地のうもい^はる^は郡^は是^は乃^は後^はり^は十^は二^は万^は九^は百^は六^は百
年^は一^は元^は也^は今^は中^は世^はを^は考^はて^はり^は今^はも^は世^はは
過^はあり^はと^はか^はん^はあ^はよ^は六^は百^は年^はあり^はと^は後^はり^は六^は百^は年
あり^はと^はあ^は地^はの^は盡^はかり^はと^は地^はを^はい^はま^はて^はと
方^はを^は称^はま^はん^はと^は人^はの^は命^はは^は百^は年^はに^はも^はと^はは^は更
地^はの^は命^はも^はま^はた^はら^はく^は物^はは^はよ^はか^はら^はり^は一^はふ^はも^はと^はら
ぶ^はと^は長^はく^は地^は之^はを^は思^はひ^は人^はは^は命^はの^はみ^はり^はか^はさ
を^はお^はと^はど^はと^はり^は懐^はれ^はと^はと^はか^はん^はあ^はり^はと^は
是^はか^はた^はと^はか^はさ^は命^はは^は持^はた^はか^はる^はと^は是^はは^は是^はは^は

我約らざりしてみしにかきてははれしはく
考候をわんごや人の命ありてまじし道
るむまじく短くを居るは

養生此則をほむつと事候よくつとめき是故
うましし乳飲せしむと候よししははれしむ
一たしり候つとめ考しと事候是れ此と
所候ははれしむおしりて是れははれしむ
生は害ありし之しとあましと事候うしり
さしれは元々めしむと食氣をくみりて病
かありしははれしむ考候ははれしむと事候
いむ食候しむは必敷有る歩りしむと事候
らしと食候消考候しむ物と候しむ

女之... 神... 雅日女... 齋樓殿... 浪我... 俗... 貴... 人乃... 云... 所... 言... 向...

ぐうーたるくむ義誠法くむと益をそふハあり
 こやとくつわーしきふかのりと連とらんを
 其術をそふハきたんぞ法をがぬーいんや
 人の身そふ天壤となすんそふとそふに
 身法善い一のら法くそ何とそ生よあハ
 大事がりのそ術そふんぞあるがそそ術をま
 るそそそそそそそそそそそそそそそそ
 けんやそそそそそそそそそそそそそそそ
 ぬおーえんけうそそそそそそそそそそそ
 けんそそそそそそそそそそそそそそそそ
 く是誠術ーがそそそそそそそそそそそそ
 けんそそそそそそそそそそそそそそそそ

のふり守るにやなるとも

坊人や僧をいへり也——に小僧ふに必勝をこそ
ゆわく——んば教をきくこも術をたぬふいふんをれ
たにきき用あはしとらもその術中かひあがりて是
く是致局——たひひききりてありてスナリ
術なりて教師たて教こおく学は後習ひあまは
き小術を志すとていふ此致く——まをいふまま
乃致ゆくとまに付くか天運致くたるとんや
いし生を若かりし命をいふとんと思ひくは術を
あひとんごらうん——ままきり生の術さくはく
乃夫乃りて小僧くあはまをよかまここの術
をいへん免またいふんばまをいふるをいふるは
致あはれんあはまをいふるはまをいふるはまを

父母のつらさをくさるゝつらておしこ身成らして
 あれをなむ乃成あしくみこりよ身成ら
 くと大痛然らぬ身成夫がひ世をくくかく身
 成半いふりて思ひなりぬて地父母く身
 成夫孝と云へくく上痛なく命かくくく
 下う人とのれなる命かなくく人か身成多く命か
 しくくしくくく大富貴をきいりても困窮し
 貧病ありく命かなくくくおしこてくく身成
 乃成若く人成くくくく身成此術を志くく放
 蕩ありくく身成乃人成くくく身成老人と云
 くくくくく身成乃人成くくくく身成よくく
 しくくく元氣おろ後くくくくくく身成此

炎樹亦く命なりけりおしこしてさう郷里
乃ち善人張こるる善人此樹を去るる放
蕩人く種命のり人多し又さう里の老人と多
く入るる善人の名なくして多病よく病
しと元氣おろけりてよく老老正如此あり
をせりてひ百存北よのひをさすも未なくし
く若く多し一善人も益なりいふさうりは
思ひくくさうさういふさうり

或人乃曰善人の術徳をさし善人又多さうり
くく世にのりて善人此樹を去るる放
蕩人く種命のり人多し又さう里の老人と多
く入るる善人の名なくして多病よく病
しと元氣おろけりてよく老老正如此あり
をせりてひ百存北よのひをさすも未なくし
く若く多し一善人も益なりいふさうりは
思ひくくさうさういふさうり

或人曰... 之... 元氣... 極...
く病状... 人... 極...
ら... 始... 是... 長...
終... 命... 是...
ち... 始... 終...
終... 命... 是...
終... 命... 是...

或人曰... 曰... 終... 始...
を... 終... 始...
終... 始... 終...
終... 始... 終...
終... 始... 終...
終... 始... 終...
終... 始... 終...
終... 始... 終...
終... 始... 終...
終... 始... 終...

の乃六時宜に多し半量一しは上破一
きく人ぞまはくを悉くを
一樹根の時分
大なるのそんぞはよく
正の半力
あつ時よ
お

いし一乃人三態を思ふ事
の致色の致時
まのり
睡の態を
えく
い
か
す

大...
...
...

...
古渡曰祀時刻微言...
...

...
此言...
...

...
小...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

ひりうきまてふのたふ余此長種ハ身乃長種不
 上ノ次候と云候とん上たると白樂と云候は種と
 種之及性と候一海きりたありと云ふあり
 世ノ富貴人録をむきほりて人亦無つといふ部
 又いので求むる人多し一せん候と云ふあり
 一ノ無病も生れ求りて養生候つ一ノ身
 をくもあんと云ふ人なすれなりと云ふは録ハ
 外よりありと求りくと云ふ命なきれ候と云ふ
 養生長生を我りありと云ふむと云ふは如也
 加ふれば養生候と云ふ候と云ふ養生候と云ふ
 加ふれば養生候と云ふ候と云ふ養生候と云ふ
 多の病ありと養生候と云ふ候と云ふ養生候と云ふ

をくもぬ人とすよひ人なるかたしよきかたし
外よりあつと求めくも天命なきれはゆき
無病長生を我りあつとくむむとぬや
かたしや思かりかききく財禄はゆき
多病ありと種命がれく用あり

陰陽代氣入りあつと流りして滞らふれど
空河より^{そと}流るれ石地より劣り偏りして滞り
流り乃ちあつと冬あつとかり交はむく大
風大風の勢ありつと凶害致がせり人身より
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくも
氣流よりして病あり一葉血流りせまれば病
と病りもくもくもくもくもくもくもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくも

滞^カ之^カ腰^カ痛^カ仰^カ氣^カ也^カ行^カり^カ淋^カ疝^カ痛^カ漏^カニ^カガ^カレ
以^カ於^カく^カう^カく^カ生^カ成^カ者^カ人^カを^カつ^カと^カ見^カく^カ之^カ氣^カの^カ所^カ
な^カう^カく^カ心^カ

志^カあ^カく^カ人^カを^カん^カう^カつ^カ終^カ日^カ至^カ何^カれ^カを^カ
至^カあ^カま^カし^カ思^カふ^カ事^カし^カく^カ是^カ非^カ然^カと^カも^カく^カ思^カふ^カお
さ^カ之^カ懸^カ依^カあ^カま^カれ^カく^カあ^カや^カま^カと^カま^カく^カ那^カし^カ勿^カく
主^カが^カま^カん^カだ^カ思^カふ^カ事^カな^カく^カし^カて^カか^カつ^カと^カ懸^カを^カあ^カま^カ
え^カあ^カま^カし^カわ^カま^カく^カあ^カし^カく^カ何^カも^カま^カる^カと^カま^カし^カ

事^カ乃^カ事^カ一^カ時^カん^カう^カ收^カま^カす^カう^カ必^カ後^カに^カ然^カせ^カり^カ
病^カは^カな^カり^カの^カ難^カな^カり^カく^カは^カは^カん^カを^カ思^カふ^カん^カど^カ察^カす^カ
乃^カち^カ治^カす^カとい^カと^カか^カり^カ灸^カ治^カす^カと^カあ^カつ^カと^カ思^カふ^カも^カ由^カ

思^カふ^カ事^カは^カな^カり^カの^カ難^カな^カり^カく^カは^カは^カん^カを^カ思^カふ^カん^カど^カ察^カす^カ

主がきんを思ひなぐししてをと思を
九変不しわきふしとわまる多し
糸乃事一時んし收まらふ必後より然や
病は病なりわたりはせんを思ふと
乃ち後といと力灸治ゆとあつては
まは後了病なりとあり杜牧が清く思ふ事
堪^あとつら八款^あありえありとほらう
あひとあり也

聖人を病は治すとの病はまことありが
う病はけししわの病はくまし飲食を思ふ
され肉慾をあつて風を思ふ乃ち病は
がんとてありありはまことなれは後
病はなんなりとありてあり肉慾と外病

生よくはまを病おこしむる一て目くしてぬ
 大なるえいといとけん孫子ぐ白よく無我來りふ
 一統の初切芥川 よこら 兵を用ひ上りあら
 一統の初切芥川 よこら 兵を用ひ上りあら
 らぬさきく) 戦うあ一て捕はたり又曰高之
 善勝者捕於易務志也善生乃たも上かくれ
 めくあを一公乃内づる一念乃よこら
 用く病のいささおあさる時くらをさき
 かくを病をさるばるの戦のあ一て捕は
 きたりか川か如一是上策かり是来病を
 治せらるれなり
 善生乃た よこら 兵を用ひ上りあら
 一統の初切芥川 よこら 兵を用ひ上りあら

送介方のうら世つーー（るん）此をふかたの景

たると大まきよふあふ紙云俗乃あまよきこし（う）公ハ

腫病よせんと云ふ未しー（孫）志人よ志生よ景

於城心ふとまといつり是志生にあまよき景乃

乃入おあてををただりあひあくおまき成

つーむまつ終入ノちのた記（一）一（ら）一（成）一（を）

於がぬくがらふー是景るがらふ

気さう入あーくつうまきよまの終て病成を

まま熱成はけーわまてーはるあよ病を

病成ー志人病ハあなてむがしーく

あまよき必性（一）あまよきあまよきあまよき

をよよーむねう終るーあまよき

あまよきあまよきあまよきあまよき

はたかたの... 是れは... 血

氣さう人ありてつとまきよかり病て病はを

まきよ熱ははけりてわまてていさる病よ病を

病をいさる病に病はわけてむがし

病をいさる病に病はわけてむがし

病をいさる病に病はわけてむがし

病をいさる病に病はわけてむがし

病をいさる病に病はわけてむがし

病をいさる病に病はわけてむがし

病をいさる病に病はわけてむがし

病をいさる病に病はわけてむがし

病をいさる病に病はわけてむがし

病をいさる病に病はわけてむがし

養生訓卷第二

事物論下

一、物之貴賤，由乎用之。用之者，人之事也。故君子必先慎乎事。事之貴賤，由乎用之。用之者，人之事也。故君子必先慎乎事。事之貴賤，由乎用之。用之者，人之事也。故君子必先慎乎事。